

京の博物館

目次

巻頭言	1	トピックス	6
おこしやぞ		京のぐるちやーずほっと「ひと・もの・わが館自慢」	8
・遠藤剛照美術館	2	美術館・博物館と私	11
・東寺宝物館	4	ディ・タイム	12



巻頭言

博物館って何？

動物学者・京都精華大学客員教授 京都市青少年科学センター所長
日高 敏隆



博物館って何だろう？何を展示したらよいのだろうか？そんなことを一生涯命議論したことがあった。もう30年近く昔の話である。

それはぼくらが京大に自然史博物館をつくらうと考えていたからであった。

それならあの研究室に珍しい化石がある。植物教室には腊葉

標本がたくさんあるでしょう。動物教室には骨しかないなあ。そんな話をしているうちに、だいたいそんなものを並べてどうするのだ？という論議になってきた。

そもそも博物館ていったい何なんだ？誰に、何のために、何を見せるのだ？それがわからなくなってきたのである。

皆がでんでに意見をいう。どれも意味のある意見なので、ますますわからなくなってきた。外部の人にもいろいろと聞いた。

その中でぼくがおもしろいと思ったのは、あの「民博」をつくった梅棹忠夫さんの意見だった。

「博物館はがらくたを集めておけばよいのだ」と梅棹さんは言うのである。「博物館は美術館ではない。珍しいもの、美しいものだけを並べておいてもだめなのだ。がらくたも並べておかなければ。」

「がらくた」とは梅棹さん一流の表現であることはすぐわかった。人が何を知りたくて、何を見たくて博物館に来るか、それはわからない。奇妙なことを知りたくて来る人だって、いないとは限らない。そういうとき、珍しいもの、美しいものはもちろん、一見がらくたと思えるものが、その人にとってとても大切なことを語ってくれることもあるのだ。

「人が来ると、がらくたがしゃべりだしますよね」という梅棹さんのことばが、ぼくには忘れられなかった。

梅棹さんが今も同じことを言われるかどうかはわからないが、あのとき梅棄さんに聞いたことは、ぼくの心に強くひびいた。

京都の町には実にいろいろなものがある。これだけ多種多様な文化のある町は、世界にもそうたくさんはないだろう。

そのそれぞれに歴史があり、人々の努力の流れが込められている。それを知ることは、われわれにとって大きな喜びであり、さらに大きな新しい流れをおこしていく力の源になる。

人間は欲望が深いから、少しでも知ればさらにその先を知りたくなる。そんなとき、ここにはこんな珍しいものがあります、というような展示だけで満足できるとは思えない。きっともついろいろなものが見たくなるだろう。がらくたとはそのような意味なのだろうと、ぼくは思っている。

芸術寺院「本物」の創造

こうき
遠藤剛熙美術館



正面

遠藤剛熙美術館は、遠藤剛熙自らがデザインし平成12年（2000年）秋に開設した美術館である。

遠藤剛熙は徒党を組まず、個人として、自分自身のため、真実のために制作した。外面を見ず内面のみを見つめ、信仰や信念のために戦い努力した。

西洋芸術を学んだが模倣にとどまらず、日本の国土の自然と精神伝統と生活の

現実に根ざした、独自の芸術を創造した。

機械化しヴァーチャル化した現代にあって、収蔵作品の約1,500点の全ては、屋外の風景の現場で対象に直接面して、新鮮で生々しく強烈な自然の存在の生命に、感動し驚嘆し畏敬をもって制作した。油絵は一作に十年、二十年かけて描き加え、重厚かつ透明感がある。鉛筆や墨や絵の具の黒を用いた、一筆入魂のデザインには武士の精神がある。

自然を傍観せず凝視し実在に食い入り、主観と客観の分別を超えて、自然と人間が一つになり合体する。

山川草木大地悉皆神性神性。自然宇宙・神佛・真理真実を同義とする思想を屋外の自然の制作の現場で実行している。

創造の生命の芸術的真理と宗教的真理は一つと信仰をもって、流派宗派を超えた芸術寺院の建立を進めている。

…西洋の古代インド思想ーバラモン教、佛教、ヒンドゥー教…の研究は、本格的には十八世紀から始まった。ゲーテ、モーツァルト、シヨーベンハウエル、ルドン、セザンヌ、ゴッホ、マイヨール、ハッセ、ロランらは東西思想、文化の一体化の仕事をしている。



中庭

音楽のモーツァルトと絵画のセザンヌの成期の作品には、それぞれ神と浄土に通じる境地がある。

ゴータマ・ブツダ、イエス・キリスト、法然、親鸞、栄西、道元、日蓮、白隠…も、バツハ、モーツァルト、セザンヌ、ゴッホ…も、私的に家にとどまらず、無所有で、生涯屋外の自然の中で修道した。そうして大地を最後まで歩みつづけ、ブツダは野辺に、キリストは丘上に、法然、親鸞らはあばら家に亡くなった。

セザンヌ、ゴッホは、ともに屋外で絵を描きながら倒れ、無名で果てた。バツハは没後作品は二束三文で売り飛ばされ、モーツァルトは共同墓地に葬られた。

彼等は、真理のためにのみ真実に生き、死んだ。

真理は一つ、天地に二つはない。古今東西南北を超えている。創造の生きた宗教的真理と芸術的真理は究極一つである。科学と芸術と宗教の目的は一つであるべきである。…

遠藤剛熙 エッセイより



柱川

芸術は国境・人種・宗教・思想の争いは無い。出生・階級・貧富・賢愚の差別はない。芸術は元より憎悪と闘争を一切超えたものだ。芸術の使命は愛、慈悲である。

この美術館は永遠なるもの（自然・宇宙・神佛）と人類が出会う謙遜な寺院でありたい。…

美術館建立の趣意文より

● 美術館の活動

当館は

1. 自然との共生。 自然と人間の美と真実の探求。
2. 温故知新。 古典、伝統の尊重と学習。
3. 諸文化の交流。 文化の生活の共同。

の三つを支柱に芸術を愛する全ての人々に開かれた美術館でありたいと念じています。

● 自然との共生

人間による地球の自然破壊が止まらず、社会の情凝化、ヴァーチャル化が進み、リアリティーが失われている現代。現実の新鮮な感覚や感動をともなう自然を、熟視観察し、思考し、総合的に研究し、自己実現を目指します。人間を包含する自然の諸存在と生命を等価値と見て畏敬と愛をもち、自然と人間の美と真実を探求します。

当美術館附属のアトリエでは、老若男女が風景や人物の対象を前にして造形芸術の形、色彩、調和の研究をしています。



大樹



日本の女

● 温故知新

当館は京都の長い歴史のある小路に面しており、古い町家を近年ギリシャ風ファサードのある美術館に建て替えたシンプルなものです。画家遠藤剛熙は京都に生まれ育ち、半世紀以上京都の自然と人間を描き続けてきました。

温故知新、古い自然や街や芸術作品の中に本当の新しいさがあることを心で感じ取り、それを尊重しそこから学びます。自然と文化を破壊から護る市民運動の環を皆さんと一緒に広げましょう。

当館の機関誌「葎視」をすでに21号まで発行しています。人間の出会い、自然と芸術、伝統と創造、歴史探究、国際交流などをテーマに、学術研究者の寄稿を受け、共同研究をすすめています。

● 諸文化の交流

当館は開館以来毎年内外の芸術家や学者の美術展や音楽会や講演会を催して来ました。

元より文化芸術は特定の専門家のためにあるものではなく、人間皆のためにあるものです。当館は、紙割社会の狭い枠を超えて、様々な職業、分野、立場の老若男女が、本当の自分を生かし、願いや祈りを表現し、真実な出会いによって、文化の創造的生活を共同するところでありたいと念じています。建築、絵画、デザイン、音楽、舞踏等のアトリエ、発表のギャラリーやコンサートホール、教育、科学、福祉、宗教等のセミナー。又、人生の各時期に応じて結婚式、同窓会、懇話会などに供することになればと思っています。

遠藤剛熙美術館 館長/遠藤剛熙
学芸員/内藤真臣
詫庭静香



水路園と椿



「画家 遠藤剛熙」加藤周一(文) 遠藤剛熙(画)共著 日経記念会
加藤周一さんのお話と対談のつどい

所在地/〒600-8353

京都市下京区猪熊通高辻下ル

TEL (075) 822-7001

FAX (075) 801-0826

交通/阪急「大宮駅」より徒歩7分

市バス「堀川松原」下車、徒歩3分

開館時間/ 10時～17時 (入館は16時30分まで)

※要予約 電話またはFAX・ハガキにて

休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、臨時休館日

料金/一般500円(400円)、大・高生400円(300円)、
中・小生200円(100円)

※()は20名以上の団体料金

大師の御寺

● 東寺について

東寺は、平成6年、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、東寺が人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

東寺は平安京造営に際し、国家鎮護のために建立された官寺です。弘仁14年（823年）には空海に下賜されて真言密教の道場となり、寺院として本格的な伽藍が整えられました。その後、度重なる内乱等によって焼失しましたが、その都度、時の政権の庇護のもとに再建されてきました。現在は南大門、金堂、講堂、食堂北大門が南北線上に並び、この東南方には五重塔が、西南方には灌頂院が配されて、創建当時の伽藍配置を伝えており、平安京復元の基準としての重要な意味をもっています。

金堂（本堂）は慶長8年（1603年）に再建されたもので、桃山時代を代表する豪壮雄大な建築です。また五重塔は寛永21年（1644年）の再建です。その高さは現存する塔のなかでは最大で、京都の景観的シンボルとなっています。このほか、弘法大師の住居として建てられた大師堂は、康暦元年（1379年）に焼失後、翌年に再建され、さらに明徳元年（1390年）に大師像



東寺全景

教王護国寺（東寺）

を拝する礼堂を増築したものが現存しており、寝殿造りの形式を受継いで優雅な姿をみせています。

● 東寺宝物館について

東寺宝物館は東寺境内の北大門の西側にあります。昭和32年（1957年）の文化財総合調査を機に、文化財を収蔵する建物が必要との声が高まり、昭和38年（1963年）に完成し、昭和40年（1965年）10月に一般公開を始めました。建物は鉄筋コンクリート・3階建ての切妻造りです。

東寺は弘法大師空海以来の密教美術の宝庫といわれています。国宝や重要文化財指定のものだけでも20,000点を超える寺宝を所蔵しています。東寺宝物館では、これらの寺宝を春期と秋期の年二回、ともに約二ヶ月間、その都度テーマを設定して特別展を開催しています。

館内1・2階が展示スペースです。

彫刻、工芸、書跡、絵画の各分野からその代表的な逸品をご紹介申し上げます。

【彫刻】



国宝「兜跋毘沙門天立像」
（唐時代、9世紀、木造）

当初は平安京羅城門の樓上にあつたと伝えられる北方の守護神です。宝冠の正面には鳳凰が浮き彫りされ、金鎖甲を全身にまとい、海老巻手と呼ばれる防具を着けています。地天女が両脚を支え、その脇に邪鬼が介添えします。魏氏桜桃という桜材により中国で作られて日本にもたらされた貴重な作品です。瞳には黒色の鉱物が嵌入されています。

【工芸】



国宝「金剛密教法具」
(唐時代、9世紀、銅鍍金)

『弘法大師請來目録』に記されている九種十八口のうちの法具に当たります。弘法大師請來の最も由緒正しき法具として、現在も東寺灌頂院で一月に行われている後七日舞修法に用いられ尊崇されています。力感あふれる雄大な本法具を模倣した「弘法大師請來様」は、その後盛んに制作され密教寺院には今も多くの遺例が残っています。

【書跡】



国宝「風信箋」
(平安時代、9世紀、紙本墨書)

空海が最澄に宛てた手紙三通を一卷に収めています。第一通目の書き出しの「風信箋書」から「風信箋」の名で親しまれています。さわやかですがすがしい自由奔放な書風は、空海真跡中の最高傑作とされています。日本を代表する二人の高僧の親密な関係を知るうえでも貴重な史料です。

【絵画】

国宝「伝真言院曼荼羅」
(平安時代、9世紀、絹本着色)



金剛界



胎藏界

現存最古の彩色曼荼羅です。宮中真言院の御修法で使用されていたという伝承から「伝真言院曼荼羅」とよばれています。請尊の体には強い隈取りが施され、円顔に長い眉、小さい鼻唇、童子形のプロポーションなどエキゾチックな特徴をもちます。その独特な尊像表現と鮮やかな色の対比は印象的で、彩色曼荼羅の最高傑作に位置づけられています。

以上、弘法大師の遺品をはじめとする数多くの寺宝は、東寺並びに京都市民の宝であることはもちろんのこと、日本が世界に誇る至宝であります。また、毎月21日には「弘法さん」と親しまれる縁日が開かれ、境内いっぱい1,000軒以上の露店が出てにぎわいます。どうか、大師ゆかりの庶民のお寺「東寺」にご参拝いただき、合わせて春秋の東寺宝物館特別展にご来館賜り、東寺1,200年の歴史に触れていただきますれば幸いです。

東寺宝物館

文化財保護課長 山田 忍良

所在地／〒601-8473 京都市南区九条町1

TEL (075) 691-3325

交通／JR「京都駅」徒歩15分

市バス「東寺東門前」徒歩1分

近鉄京都線「東寺駅」徒歩5分

開館時間／春・秋のみ開館

3月20日～5月25日 9:00～17:30

9月20日～11月25日 9:00～16:30

料金／一般・大・高校生500円、小・中学生300円



京博連設立15周年記念式典を執り行いました！

12月5日、京都ホテルオークラにおいて、京博連加盟の87団体及び京都市役所関係部局から125名の方に御出席のもと、京博連設立15周年記念式典・祝賀会が盛大に執り行われました。京博連発足当時、代表幹事として御尽力いただいた筒井 敏一相談役から「京博連の15年を振り返って」と題した講演や京都市立芸術大学大学院で学ばれている中国からの留学生楊雪元さんの美しい歌声、中国笛の音色など、楽しく、華やかな会となりました。

15周年を記念して、全面改訂した京都市内博物館ガイドブック「京のかるちゃーずほっと」のお披露目もこの場で行われました。



京博連表彰・市長感謝状の表彰式

京博連15周年記念式典において、過去15年の間、役員として京博連を支えてこられた方、京博連主催事業に御協力いただいた加盟館に対して、京博連表彰・市長感謝状の表彰式が行われました。

32名の方が個人表彰を受けられ、101館が加盟館として団体表彰を受けられました。



第13回ミュージアムロード 「知ったはる？もっと京都！」

期間：平成20年2月9日（土）～3月16日（日）

<各会場により、期間が異なります>

会場：市内33館

第13回ミュージアムロードは、9月から柳原吉郎相談役を座長とする企画委員会で検討を重ねてきました。

今回は、「知ったはる？もっと京都！」をテーマに各会場館において、1ヶ月余りの間、市民や観光客の皆様いろいろな分野の「京都のこと」を見て、知って、体験していただきます。

今回も、各会場をつなぐスタンプラリーを実施し、先日、発売を開始しました京都市内博物館ガイドブック「京のかるちゃーずほっと」をはじめ、各会場館から御提供いただいた素敵な商品が当たるプレゼント企画も前回以上に充実しています。

<平成18年度の開催風景>



小倉百人一首殿堂「時雨殿」

財団法人 小倉百人一首文化財団 課長 高木久美子
 (12月1日から京都商工会議所 会員サービス部 調査役)

わが館を紹介

小倉百人一首は、天智天皇から順徳院に至る歌人百人の優れた歌を各一首ずつ選び集めた秀麗な和歌集であり、時代を超えて多くの人々に愛好されている日本の代表的な古典文学のひとつです。

「時雨殿」は日本人の心の故郷として、大きな役割を果たしてきた小倉山を含めた嵐山・嵯峨野地域に、平成18年1月27日に開設しました。

いうまでもなく、「時雨殿」は小倉百人一首撰集の舞台となったと伝えられる「時雨亭」から命名されました。名勝嵐山を望む渡月橋上流、保津川左岸沿いに建つ、敷地面積2,324.90㎡、延床面積1,377.60㎡、地上2階建ての和風建築です。



わが館ひと自慢

当館スタッフ一同

「時雨殿」は、楽しみながら、「新しいもの」と「古いもの」に触れて頂く体験・学習型施設として、幅広い皆様にご来館頂けるようスタッフ一同心がけております。「時雨殿」では、海外からのお客様に対しても、英語対応ができて、明るく元気なスタッフがご来館をお待ちしております。



わが館もの自慢

館内設備

「時雨殿」は平成18年12月に京都府より博物館登録を受けております。同類施設では、体験できない新感覚の施設としての充実を目指します。

「時雨殿」1階は、床一面に敷き詰められた液晶パネルに、京都市内上空から撮影し、コンピューター処理を施した高精細な画像を映し出し、ライブ感覚で京都市街を再現。あたかも京都上空を空中散歩しているような雰囲気を感じることができます。壁面では、「時雨殿なび」をもち、百首の歌パネルの前に立つと、歌意や朗詠が流れてきます。

2階は120畳の大広間で、江戸時代の百人一首かるたの展示や、往時の歌人たちの歌合を等身大の人形で再現しています。

また、中核施設「時雨殿」のほか、屋外展示施設として、自然石に歌を刻み、小倉百人一首という日本固有の情景や美意識を、次世代へ継承することを目的に歌碑を100基建立しました。全国の著名な書家などの揮毫が楽しめます。「時雨殿」近くの亀山公園など5ヵ所の公有地に建立した歌碑を巡り、歴史的な地域を散策しながら、その歴史や風土なども体験・鑑賞ください。

また、「時雨殿」2階の大広間で、社団法人全日本かるた協会と連携して「競技かるた女流選手権大会」を行うなど、多くの方々に楽しんでいただける参加型の施設を目指しております。



- 所在地/〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11 TEL (075) 882-1111
- 交通/嵐電「嵐山駅」下車、徒歩10分 JR嵯峨野線・阪急電鉄嵐山線「嵐山駅」下車、徒歩15分
- 開館時間/10時～17時 休館日/月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始
- 料金/大人 800円 小人 500円
- ホームページ/<http://www.shigureden.com>

京都市立芸術大学芸術資料館

学芸員／松尾 芳樹

わが館を紹介

明治13年(1880)に京都市立芸術大学の前身京都府画学校が開設されました。その後、教育的見地から芸術資料の収集が行われるようになり、やがて昭和37年(1962)に附属図書館の所管施設として陳列館が開設され、大学の中で博物館業務が始まりました。このようにその蓄積を求めれば、極めて長い歴史をもつのですが、博物館法に従う施設となったのは平成3年(1991)に附属図書館資料部門を、芸術資料館として独立させ、その年博物館相当施設の指定を受けて以後のことになります。展示施設が狭小なこととあって、どちらかといえば収集や保存が中心になる博物館ですが、大学の学年暦に従って年間100日以上は収蔵品展を開催し、一般への公開を行っています。



収蔵品は芸術資料約16,000点。美術工芸学校以来の卒業作品(日本画・図案等)および参考品(日本画・洋画・東洋画・模本・版画・陶磁器・染織品・民族資料・土佐派絵画資料・田村宗立旧蔵粉本等)に分類されます。

わが館ひと自慢

田能村直入

田能村直入(1814-1907)は、明治11年、時の京都府知事榎村正直に対し、画学校の開設を初めて陳情し、明治13年に開校した京都府画学校の初代棟理(学校代表者)となった文人画家です。豊後に生まれ、田能村竹田に師事しました。煎茶道や南画の興隆に尽力したことで知られています。学校での在職期間は短かったのですが明治20年に、所蔵している中国絵画や文房具などを学校に多数寄贈し、学校の所蔵コレクションの足がかりを作りました。それまで学校に美術資料を所蔵するという感覚はあまりなじまなかったらしく、所蔵していたのは、書物と絵手本ばかりだったのですが、このコレクション群の存在は、明治20年代の後半から盛んになる参考資料の収集を促す効果があったと思われます。直入の、学校に対する貢献はとても大きなものでした。



わが館もの自慢

数千点を超す粉本群

やはり、数千点を超す粉本群です。大和絵の流派である土佐家に、中世末から継承されていた土佐派絵画資料や、幕末期の稍密海を中心とする六角堂能満院の仏画工房が所蔵していた仏画粉本類である田村宗立旧蔵粉本のほか、京都府画学校から美術工芸学校で使用された在京諸派の粉本があります。粉本というのは、東洋絵画の世界で絵画制作の参考とするために暮えられる、下絵や模本類の総称です。多くは薄い楮紙に白描や淡彩で描かれた脆弱な材質のものでかつては学画においてこうした粉本が最も重要な教材でした。ただ、一般への公開には難点が多く、活用には悩みの多い資料でもあります。



●所在地／〒610-1197 京都市西京区大枝番掛町13-6 TEL (075) 334-2232

●交通／京阪京都交通バス「芸大前」下車、徒歩2分

●休館日／土・日・祝日、年末年始 展示室は会期中月曜休み ●開館時間／9時～16時30分

●料金／無料 ●ホームページ／<http://www.kcua.ac.jp/muse>

本能寺 大寶殿

法華宗 大本山 本能寺 執事補 高橋 宏顕

わが館を紹介

本能寺の宝物館「大寶殿」は平成十年の十月に、日蓮聖人の開宗七百五十年を記念して開館致しました。昭和三十六年以来、原則宝物は非公開でした。それというのも本能寺文化会館・ホテル本能寺会館の事業が相次いで計画され、高床式の寶物倉「霊寶殿」を解体する事となったからです。

時は流れて織田信長の人気が高まり、当寺を訪れた方々の中にも、「寺宝を拝見できますか?」とお尋ねの方が多くなり、公開はしていない旨を伝えますと、がっかりされてお帰りになられる姿に大変申し訳ない気持ちでした。



わが館ひと自慢

藤井 学先生

昭和五十九年国庫補助事業として、京都府教育委員会が主宰する古文書等緊急調査の対象に本能寺が選ばれ、府立大学教授 藤井学先生（当時）を団長とする調査が行われ、これが縁で引きつづき、本能寺独自の事業として調査を継続する事となり、昭和六十二年より、平成に入り、藤井先生がお亡くなりになるまで十数年に亘り、文書・工芸品・絵画等什宝の調査が続けられました。今日あるのは全く藤井先生のご尽力のおかげです。



わが館もの自慢

近世前期の多くの
立華図や華伝書

本能寺は華道の家元でもあります。近世前期、当時の大住院は元禄九年（1696）九十二歳の生涯を終えるまで、華道に全精力を傾け、立華の名手とたたえられた多くの立華図や、華伝書を残しています。



●所在地 / 〒604-8091

京都市中京区寺町通御池下ル下本能寺前町522-1 TEL (075) 231-5335

●交通 / 市バス「河原町三条」/ 地下鉄東西線「京都市役所前駅」

京阪電鉄「三条駅」西へ徒歩5分/阪急電鉄「河原町駅」北へ徒歩10分

●開館時間 / 10時～16時 休館日 / 年末年始 展示替期間

●料金 / 一般 500円 中学・高校生 300円 小学生 200円

青少年科学センターで環境問題を考える

京都市博物館ボランティア「虹の会」第4期生
竹森 培子

科学センターと言えばプラネタリウム。12月のテーマ「クリスマス飾り一掃空からのプレゼント」京都の夜空の日没から夜明けまで、ロマンチックな音楽と飾りが、まるで星を飾っているような気分を味わわせてくれる。

屋外にある「チョウの家」では蝶の一生を見ることができ、神縄の大型蝶「オオゴマダラヤリユウキョウアサギマダラ」が、フワリフワリ飛び、蜜を吸い、一緒に遊んでいる気分になる。

そして直径30cmばかりのガラスのボールの中は表裏に小さな地球を映している。適度な温度(19~27度C)と光の条件下で藻が光を吸収し、ガラスの中の小さな藻類は苔を出された酸素で呼吸し、炭酸ガスを吐き出す。また藻類は藻を食べるその排泄物はバクテリアが分解し、藻の栄養となるので、餌を与える事や、水替えの必要はないというものです。

温暖化の影響が如実に表れている今、我々はどういったバランスの中で生きている、生かされていることを改めて考えさせられる展示でした。



美術館は癒しの空間

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
第5期生 吉岡 富美子



20年程前、国宝「紅梅屏風」を見るため熱海のMOA美術館を訪れました。入り口を入ると見上げるほどに長いエスカレーターと階段。エスカレーターを上りきったとたんレーザー光線と音楽の洗礼を受け、極めつけは、広いガラス越しに見下ろすキラキラ光る相模新。以来、何度も訪れているが、初めて訪れた時の強烈な印象は消えません。美術館という建物に興味を持った最初です。

最近ユニークな美術館が増えましたが、ぜひ、行ってみたいのが「開館時間が日夜にあわせて変わる」という湖畔の美術館「島根県立美術館」。夕日の好きなお私としては、美術館の中から眺む夕日をゆっくり眺めてみたいのです。

京都国立博物館をはじめとして、ミュージアムショップでおしゃれな小物を探したり、カフェで外の景色を眺めながらぼーっとするのも、他の場所と違ってなぜか安らげるのです。

私にとって、美術館は、絵を見るだけでなく、癒しの空間なのです。

加盟館へのお知らせ

京博連他都市施設視察研修の実施

日 時：平成20年3月5日（水）8：30～17：30（予定）

内 容：他都市の博物館施設を訪問し、事業及び運営等の説明、施設見学を通して、

自館の運営等の参考とするとともに、参加者の交流を深めていただきます。

視察先：明石市立天文科学館（兵庫県明石市）及び兵庫県立考古博物館（兵庫県加古郡）

対 象：京都市内博物館施設連絡協議会加盟館職員

※一般の方は参加いただけません



紅葉の季節にツツジの花！？

京都市内博物館施設連絡協議会 監査
京都商工会議所総務部次長

堀江 肇博

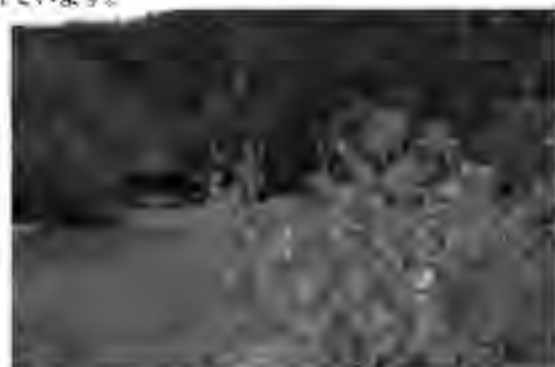
小倉百人一首の歌碑を嵐山・嵯峨野一帯に建立する事業が、5年の歳月を掛けて今秋ようやく完成を向かえました。

完成後も一般の反応を確認すべく、頻繁に嵐山に行くのですが、紅葉の名所も多く、休日、平日ともにその景色を求めて観光客が多数訪れています。嵐山は周囲に連なる山々と渡月橋を中心とした水辺空間とのコントラストは絶景で、平安の都から名勝の地として愛されてきた趣を今に残しています。

秋を彩る紅葉の美しさに、情緒性を感じるのは世界共通と思いますが、枯れ落ちるモミジの葉を美と感じる感性は、日本人特有のものなのでしょう。小倉百人一首にも有名な歌があります。「奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき」猿丸大夫の歌ですが、暮れていく秋山の寂寥と哀感が伝わる歌であり、日本人独特の詫びさびの感性が今も昔も根底に流れている事がわかります。

日本の美意識の基礎となり、繊細な文化・芸術の世界を築いてきたこうした感性は、まさしく四季折々変化に富んだ季節感や景観などが創り出した結晶なのかもしれません。

今秋もこの美を求めて嵐山に多くの観光客が来ますが、モミジの色付きはいまひとつで、まだなお青々としています。それよりも驚いた事に、5月頃に咲くはずのツツジがこの時期にたくさん咲いており、紅葉とツツジ、なんとも滑らかな光景です。ツツジはサツキ(五月)などの品種があるようにまさしく初夏の花。万葉集でも夏の花として10首ぐらい詠まれています。



モチツツジの花



ヤマボウシの花

同様の事が私の家にもあり、庭のヤマボウシがこの時期に突然咲き出し、花は満開。葉は紅葉という奇妙な現象が起っています。春先に再度花芽をつけてくれるかが心配なのですが、自然環境の変化が、ここまで来ていることを身近に感じました。

地球温暖化の影響で、植物の生態系もが年々変化すれば、景観を構成する山々や川のほとり、それこそ観光客を喜ばせる社寺の庭園などは、今後どのような表情を作り出すのでしょうか。

植物は私たちの生活文化にとって切っても切り離せない関係にあり、幼少の頃を思い浮かべると、お正月には松飾りやお供えにウラジロや干し柿、セリ、ナズナなどの春の七草を摘んで七草粥をつくったり、入学式になると校庭には桜吹雪が舞い、新学期を感じさせました。夏は畑に一面黄色いヒマワリが、家には必ず学校で教わったアサガオがどこにもあり、秋は秋で狩道に栗や柿などがたくさん実をつけ、栗拾いや柿狩りなんかは楽しみの一つでした。

このように季節ごとに楽しみを作り出してくれる植物との関係が、今後変わってくるとなると将来が不安であり、現に身近に警告を発しているとなれば、早急に環境問題について考える必要があると思います。私たちが経験してきた生活文化を将来に残し、伝えていくためにも、まずは身の回りからできることを真剣に取り組みもうと思いはじめました。

発行 平成 20年 1月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局 (京都市教育委員会生涯学習部内)

所在地 〒604-8571 京都市中京区寺町御池上る TEL075-222-3184 FAX075-213-4650

ホームページ <http://www.edu.city.kyoto.jp/shogaigaku/kyohaku.html>

「京博連だより」に対するご意見・ご感想をお待ちしています。